



コストの半値以下ではやっていけない

原因は政府の需給調整放棄

各地で2014年産早場米の収穫が始まっていますが、生産者米価が暴落して、コスト割れの低水準になってきていると「りんぶん赤旗」では報道されています。安倍内閣は農業・農村の所得倍増を言っていますが、現実はその逆となり、不安や批判の声がでています。その原因には、TPPを見越した政府の需給調整放棄の姿勢があります。日本共産党米原市議団としては政府に積極的に需給調整にあたるよう9月定例議会で見解書を提案します。賛否の結果は米原市民報で報告します。

滋賀コシヒカリ3300円の下

稲作農家が他産業並みの労賃を得て米作りをするには、農水省の調査では平均で玄米60kg(1俵)1万6000円が必要で、

しかし、生産者米価の相場となる、農協が年内に生産者に支払う「概算金」の価格をみると、滋賀県のコシヒカリが、1等米で60kg9000円と、前年を3300円下落しています。茨城県のあきたこまちが7800円で2200円の下落、コストの半値以下となっています。

全国の指標となる新潟県一般コシヒカリが前年比1700円低い、1万2000円となり、今後発表される東北や北海道も赤字米価が予想されています。

原因は政府の需給調整放棄

暴落の背景には、JA全農や米卸業者が13年産米の在庫を過剰に抱え「投げ売り」する状況となっております。

安倍内閣は、輸入米を増やす環太平洋連携協定(TPP)を前提に、国の需給調整責任を放棄し農家に「自己責任」を迫っています。2018年産から国の需給調整を廃止することになっており、生産調整を達成した農家への交付金も今年から半減となります。米の消費減や豊作の中で過剰在庫が生まれやすくなっています。

政府が積極的米価安定策を

農民運動連合会(農民連)は、政府保有の古米を飼料用に回し、過剰な13年産米を政府が買い上げることによって価格の安定を求めています。日本共産党の紙智子参議院議員は先の通常国会で政府の責任を追究し、米価安定策を要求しました。

この米価下落は大規模農家ほど打撃が大きくなり、新規就農者に希望をなくす結果となります。政府に米価暴落に歯止めをかける緊急対策を強く求める必要があります。日本共産党米原市議団は9月議会で政府に米価安定策実施の意見書を提案します。

稲作の概算金 農協の米販売は年間を通して行われます。このため、生産者には年内に概算金で支払い、販売のあとで精算します。市場価格が安値の時、追加払いは期待できません。

2014年産概算金状況

農民連ふるさとネットワーク調べ

滋賀県	コシヒカリ	9,000	▲3,300
千葉県	コシヒカリ	9,000	▲3,000
茨城県	あきたこまち	7,800	▲2,200
新潟県	一般コシヒカリ	12,000	▲1,700
	魚沼コシヒカリ	14,200	▲2,500
富山県	コシヒカリ	10,500	▲1,800
	てんたかく	9,000	▲2,200
福井県	コシヒカリ	10,000	▲2,000
	はなえちぜん	8,700	▲1,800
三重県	きぬひかり	8,500	▲2,200

60kg玄米一等価格。13年産との比較

戦争する国づくり許さず、いっせい地方選挙勝利をめざす

2014・しが赤旗まつり

10月19日(日)
午前10時〜午後4時
場所 大津市・膳所公園(京阪膳所本町下車5分)
メインステージ
記念講演・うた・太鼓・予定候補勢ぞろい
手づくり企画
模擬店・フリマ・バザー・書籍等楽しい企画が盛りだくさん
参加費・一般1,000円・学生500円(雨天決行)
ぜひご参加ください。チケットは議員まで